

大阪府泉南市岡田における 祝言のあいさつ

岸江信介

1. 対象地の地理的環境：

泉南市岡田は、大阪府南部の泉南地方に位置し、大阪湾に面した集落である。現在、泉州沖に建設中の関西新空港とは目と鼻の先にある。大阪市、堺市、岸和田市、泉南市を結ぶ国道26号線から約1kmほど北へ入ったところにある。

2. 対象地の社会的経済的環境：

従来、農業、漁業を中心とした集落であり、近隣の岸和田市・貝塚市・泉佐野市等に農作物などを出荷してきた。

ところが新空港建設による湾岸付近の埋め立て工事によって、岡田周辺の景観は大きく様変わりしつつあり、特に岡田漁港の存続が今後心配される。

3. 生業：

半農半漁の集落であるが、農業、漁業専業および兼業従事者の数は減りつつある。近辺の地域産業としての紡織工場などに就労する者もかつて多かったが、最近では、大阪市・堺市方面に通勤・通学する者が増えている。

4. 交通：

南海電鉄（大阪市～和歌山市間）の岡田浦駅から大阪市へは約40分、和歌山市へは約20分といった簡便さである。

5. 人口：

世帯数は約1,637戸（平成2.10.31.現在）、人口は5,357人（平成2.10.1.現在）で、泉南市人口のうちの約10%を占めている。

6. 調査年月日： 1990年8月1日 午後3時30分～4時30分
1990年8月3日 午後4時00分～4時30分
1990年11月8日 午後1時40分～2時40分

7. 方言教示者： 赤路英次郎 大正 5年10月27日生（75歳）
大冢コトエ 明治42年 9月 4日生（83歳）
その他、岡田老人クラブの方々をはじめ泉南市櫛井公民館主催老人大学講座の方々数名に補充調査を行った。

8. 調査者 : 岸江信介、井上文子 (大阪大大学院)
 (調査場所) : 泉南市岡田教示者宅、岡田築会所、橿井市公民館
9. 調査方法 : 主に質問法によったが、複数話者による場面設定での試演という形式で行った。

1. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷でその家の主人 (新婦の父) に向かって、どのようなあいさつをしますか。

- 「ホーンジツワ オヒガラモ 「ヨク オメデトー 「ゴザイマス。
 「コノトビ 「リョーケノ ゴエンダンモ 「メデタク 「トトノ
 イマシテ 「ホーンジツ アカジケヨリ 「ゴミョー「ダイトシテ 「
 ユイノー「ジサン「イタシマシタ。「ドーカ 「イク「ヒサシ
 ク 「メデタク 「ゴジュノー クダサイマスヨー オネガイ 「モ
 ーシアゲマス。

本日はお日柄もよく、おめでとうございませう。この度、両家のご縁談もめでたく整いまして、本日、赤路家より御名代として、結納を持参致しました。どうか、幾久しく、めでたく御受納下さいますよう、お願い申し上げます。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈全年曆〉〈極稀〉〈かしこまり〉〈上品〉

2. その家の主人 (新婦の父親) は仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

- 「ホーンジツワ ゴ「タ「イギ 「アリガトー ゴザイマス。「エー
 ロ ワザワ「ザ 「ゴユイノー イタダキマシテ 「マコトニ アリガ
 トー ゴザイマス。オツカイ 「ゴクローサマデ ゴザイマス。「イク
 「ヒサシク オネガイ 「イタシマス。「ドーカ センポーニ ヨロ
 「シク オツタエ 「クダサイ。

本日は、ご大儀ありがとうございます。遠路わざわざ、ご結納いただきまして誠にありがとうございます。お遣いごころう様でございます。幾久しくお願い致します。どうか先方に宜しくお伝え下さい。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈全年曆〉〈極稀〉〈かしこまり〉〈上品〉

【説明】

半農半漁の築落であることははじめに断ったとおりだが、上記の会話例は主として、農業従事者からの教示によるものである。結婚という儀式の中のしかも結納授受という特殊場面で認められる「やりとり」であり、本来、当

地での生活語として、用いられることの少ない待遇表現がここでは使用されている。極度のかしこまり場面で、共通語を意識しての「やりとり」であろう。尚、この席に新婦も同席するが、通常あいさつすることはないということである。

II. 嫁をもらう人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人達はどのようなお祝いのあいさつをしますか。

(恋愛、見合いといった違いによって、あいさつが異なるという説明を受けたので、それぞれのケースを掲げることにする)

(1) 恋愛結婚を話題とした場合

○ アー オ「ク」サン コン「ド オタク「ノ 「ムスコサンワ」 オハナシ 「メデタ」ク 「マトマツラシ」イヤス ナ「ー。「ダレガ ソンナ コ」ト 「シテクレマシタ」ン「ヤ。

ああ、奥さん。今度、お宅の息子さんは(結婚の)お話がめでたくまとまったらしいですねえ。だれがそんな事、(うまく)まとめてくれましたのですか。(老男→老男、試演)〈待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈ややかしこまり〉〈品位は中〉

(2) 見合い結婚を話題とした場合

○ アー コ「ン」ド ナ「ー 「ア」ンタ ト「コ オメデ「ト」ー 「ゴザイマス。アノー ゴ「シ」ソク アノー 「オ」クサン 「モライマシ」ンヤテ ナ「ー。

ああ、今度ねえ、あなたの所、おめでとうございます。あもう、ご子息あもう、奥さんをもらいますんですねえ。(老男→老男、試演)〈中待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈ややかしこまり〉〈品位は中〉

2. 嫁をもらう家の人、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

(1) 恋愛結婚を話題とした場合

○ 「イヤイヤ モー 「ウ」チノ 「コーワ ア」ンタ 「ナコ」ド セン ウチニ 「テキト」ーニ ツレテキマシ「タンヤ 「ヨ。「イ」ヨイヨ 「ナ」 モー コン「ド」ヤ ナ「ー 「シ」キ スルテ 「ユー」ンデヤ 「ナ 「キ」ノー 「ユイ」ノー モッテ イテ モライマシ「タンヤ。

いやいや、もう、うちの子は、あんた、仲人を立てないうちに、適当に連れてきましたのよ。いよいよ今度、式をあげるというので、昨日、結納

を持っていてもらいましたのよ。(老男⇒老女、試演)〈中待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈ややかしこまり〉〈品位は中〉

(2) 見合い結婚を話題とした場合

○ エー コ「ン」ドワ アカジサン「ニ」 ナカ「エ」 ハイッテ 「モ」ーテヤ ナ「ー」 エー 「ト」コエ アノー 「ゴ」ショ「カイ」 イタダ「イ」テ ンダ 「ム」スコ「モ」 「キ」ニイリマシ「テ」 「モ」ラウ コ「ト」ニ ナリマシ「タン」ヤ 「ワ、ソ」ンデ モー 「ア」ヒタ ユイノー「」 モッテ テ 「モ」ラオ「ト」 「オ」モテマ「ス」ンヤ。モー 「ウ」チゴロデ ヨロコ ンデマ「ス」ンヤ 「ヨ」。

ええ、今度は赤路さんに中に入ってもらってねえ、いい所へ、あのう、ご紹介いただいて、それで、息子も気に入らして、もらうことになりましたのよ。それでもう、明日、結納、持って行ってもらおうと思っていますの。もう家中で喜んでますんですよ。(老男⇒老男、試演)〈中待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈かしこまり〉〈品位は中〉

【説明】

ごく親しい、近所付き合いのある者同士の会話である。それにしても、日常会話にしては、当地で待遇表現が用いられることは少ないが、内容が結婚の話題ということなので、幾分、かしこまり意識が働いてのやりとりであると思われる。

恋愛結婚を話題にした時よりも、見合いのケースを話題にした時の方が微差ではあるが、あらたまりの程度が増すのは仲介者(この場面にはいない第三者)に対する待遇配慮によるものだろう。(「ウチゴロ」は家中の意味)

Ⅲ. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことが決まった家の人に近所の人たちは、どのようなあいさつをしますか。

○ コ「ン」ニチ「ワ」ー。コン「ド」 アノー 「キ」キマシ「タン」ヤケド オタクノ オ「ジョ」ーチャンワ アノー 「キ」シエサン「エ」 アノ ト ツグラシ「デ」ス ナ「ー」。「ホ」ント「ニ」 オメデ「ト」ー 「ゴ」ザイマス。アソコノ 「ゴ」シ「ソ」クナラ マチガイナ「イ」シ 「ホ」ンマニ「エ」ー 「ハ」ナ「シ」ヤス ナ「ー」。マー 「ド」ーゾ アノー ナカ「ヨ」ー 「ヒ」ト「ツ」 「ク」ラスヨ「ー」ニ アノー 「ホ」ンマニ マ「ー」 「メ」デタ「イ」 コ「ト」デ 「ゴ」ザイマス。「チ」ョ「ッ」ト マー ワ「ズ」カヤケドヤ 「ナ」ー オイワイノ シルシニ 「モ」ッテ キ「タン」デ 「チ」ョ「ッ」ト 「オ」サメチョ「」 クンナ「ハ」レ。

今日は。今度、あのう、聞きましたけど、お宅のお嬢さんは、あのう、岸江さんへ、あの、嫁ぐらしいですねえ。本当におめでとうございませう。あそこのご子息なら間違いないし、ほんとに良い話ですねえ。まあどうぞあのう、仲良くひとつ、暮らすように、あのう、本当に、まあ、めでたいことございませう。ちょっとまあ、わずかだけどねえ、お祝いのしるしに持って来たので、ちょっと、納めてください。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈かしこまり〉〈品位は中〉

2. 嫁に出す家の方は、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

○ イ「ヤー モー 「コンナ」ンデ 「ア」ンタ モー 「モ」ロタラ 「イカン」ノヤケド ナー。「ソーンナニ」モ ナー マー 「ユーテ クレ」ンヤッター ン マー 「チョーダイ ヒトキマス。アリガトー 「ゴザイマス。

いやあ、もう、こんなんで、あなた、もう、もらったらいけないんだけどねえ。そんなにも言ってくれるのだったら、まあ、頂戴しておきます。ありがとうございます。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈全年層〉〈盛〉〈かしこまり〉〈品位は中〉

【説明】

お祝いのあいさつを述べる場面をやや具体的にするために、祝儀を包んで嫁に出す家に持って行くという設定での、やりとりとした。

上待遇ではあるが、対者待遇語が用いられていない点に注意。大阪府下、摂津、河内方言では、ハル、ナハル等の待遇語を対者(話相手)や第三者に対して盛んに用いるのに対して、当地では命令形「ナハレ」を例外として、用いられることがほとんどないといってよい。これは岸和田市以南の泉南方言の特徴である。

また、ほぼ老年層にかぎられるが、いわゆる丁寧語の「ヤス(=共通語のデスに相当)」が頻繁に用いられる。ここでは「デス」と「ヤス」とを併用している。「デス」は改まり場面での共通語使用と思われる。尚、「ヤス」もまた、大阪府下、岸和田以南の泉南方言で用いられる丁寧表現法の一つである。船場を中心として使用される「オイデヤス、オカエリヤス」は、「オ～ヤス」形式であり、外見こそ似ているが、出自が異なるものと思われる。

Ⅳ. 結婚式当日のあいさつ

1. 結婚式に出席した人たちは、どのようなあいさつをしますか。

1-1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ コ「ン」ニチワ。オメデ「ト」ーサンヤ「ス。「ホ」ンジツワ 「ゴシ
ョータイ」 ウケ「テ」 「ド」ーモ スミマシェン。イ「ヤ」ー 「ホ」
ンジツワ オメデ「ト」ー 「ゴザイマス。

今日は。おめでとうございます。ご招待を受けて、どうもすみません。
いやぁ、本日はおめでとうございます。(老男→老男、試演)〈上待遇〉
〈新〉〈老年層〉〈極稀〉〈かしこまり〉〈上品〉

1-2. 父親はそれに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○ モー オカゲサンデ モー 「ホ」ンジツノ 「ヨ」キ ヒ「オ」ムカ
エテ ワタシ「ラ」モ 「ヨロコンデマス」ンヤ。

もう、おかげさんで。もう、本日の良き日を迎えて、私等も喜んでおり
ます。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈老年層〉〈極稀〉〈かし
こまり〉〈上品〉

2-1. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ 「ホ」ンジツワ オメデ「ト」ー 「ゴザイマス。「ホ」ントニ ヨロシ「
カッタヤス」 「ナ」ー。

本日はおめでとうございます。本当によかったですねえ。

(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈全年層〉〈極稀〉〈かしこまり
〉〈上品〉

2-2. 父親はそれに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「ホ」ンジツワ アリガ「ト」ー 「ゴザイマス。「イ」ヤ モー タ
ヨリ「ナ」イ 「ムス」メヤスケド コンゴトモ 「ヒト」ツ 「オネガ
イ ヒトキマス。

本日はありがとうございます。いやもう、頼りない娘ですけど、ひとつ
お願いしておきます。(老男→老男、試演)〈上待遇〉〈新〉〈全年層〉
〈極稀〉〈かしこまり〉〈上品〉〈謙遜〉

【説明】

出席者(親戚以外)が大勢なので、それぞれ双方の父親へのあいさつは手
短になることが多い。最近の結婚式場での場合では、あいさつすることもほ
とんどないということである。祝辞に対して、新郎の方の父親は、率直に喜
びを表しているが、新婦の方の父親は、謙遜して述べることが多いという。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつにまわるときのあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所の家にあいさつをしてまわる時、姑は
どのようなあいさつをしますか。

○ コ「ン」ニチワ。コ「ン」ド ナ「ー」 ウ「チ」ー 「モー」タ 「ヨメ

デスネァ」ワ。マー ヨロシ」ク マー 「ワタシ」ラト ドウヨーニ
ヤ 「ナ」ー 「ヒト」ツ ツキオチャ ッ「テ。(石鹸、風呂敷などに
新婦の名を書いたものを差し出して)「ド」ーソ ヨロシ」ー 「タノミ
マス。

今日は。今度ねえ、うちに貰った嫁ですよ。まあ、よろしく、私等同
様にねえ、ひとつ付き合ってやって。(老女→老女、試演)〈中待遇〉〈
新〉〈全年層〉〈盛〉〈くつろぎ〉〈品位は中〉〈親しみ〉

2. そのあいさつに応じて、近所のひとはどのようなあいさつをしますか。

○ アー 「サヨ カ。「ソラ マ」ー 「ゴテ」ーネーニ。「コッチ」コ
ソ ナカ「ヨ」ー 「タノ」ドキマッ 「セ。「コラー」 コンダ」ー
エー オヨメサン 「モ」ーテ 「ケッ」コヤス ナ」ー。マー 「カワ
イラ」シ オヨメサン」ヤ 「コ」ト。ホデ モー 「マ」タ コンナニ
「テ」ーネーニ 「コンナ」ンマデ 「クレ」ーデモ マー ホ」ナ
「イタ」ダイトキマス。

ああ、そうですか。そらまあご丁寧に。こちらこそ仲良く頼んでおしま
すよ。これは今度は良いお嫁さんを貰って結構ですねえ。まあ、かわいら
しいお嫁さんだこと。そして、もう、また、こんなに丁寧にこんなまで
呉れなくても、まあ、それじゃ、戴いておきます。(老女→老女・新婦、
(試演)〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈やや改まり〉〈上品〉

【説明】

近所へのあいさつということで、普段から親しく付き合っている者同士の
やりとりである。ツキオチャ ッ「テ(付き合ってやって)となるとところが
泉南方言(岸和田市以南)の特色である。

Ⅶ. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に長男(29歳)に嫁をもらった60歳代の父親へ結婚式
に招かれた50歳代の女性が昼下がり路上で、どのようなお祝いのあい
さつをしますか。

(ごく親しい者同士の場合と、その他の場合とに分ける)

(1) ごく親しい者同士の場合

コ「ン」ニチ「ワ。「ド」ージェ。エー 「ヨメ」ハン マー ナニ 「
ケ」 エー 「ヨ」ナ ケ。「ゲ」ンキデ 「ヤッ」テル 「ケ。「ダイブ
」ナレ」タ 「ケ。

こんにちは。どうなの。いい嫁さん、まあ何か。よさそうか。元気でや
ってるか。だいふ慣れたか。(老女→老男、試演)〈中待遇〉〈古〉〈中

年層以上)〈盛〉〈親しみ〉

(2) 親しい者同士、一般的な場合

- コ「ン」ニチ「ワ、
「コナイダ」ワ ナ「ー ゴツォー 「ヨバレマシ」テ ナ「ー。

今日は。この間はねえ、御馳走よばれましてねえ。(老女→老男、試演)
〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈親しみ〉

2. 父親は、それに応じてどのようなあいさつをしますか。

(1) ごく親しい者同士の場合

- オカゲサンデ 「フタ」リャー ナカ「ヨー ヤッテ」ンデ モー 「ワシ」ラー モー 「ヨロコンデンジャ オ「ー。
「コナイダ」 「ア」ンタニカテ オ「シェ」ワ カ「ケテ ナ「ー。

おかげさんで。二人は仲良くやっているので、もう、私達も、もう、よろこんでいるんだよ。この間はあなたにお世話をかけて。(老男→老女、試演)
〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈親しみ〉

(2) 親しい者同士、一般的な場合

- イ「エ」イエ 「キテ モ「ー」テモ ナ「ー。
「ヨ」ケ ナニ 「ナ」カッテ ナ「ー。
「アンタ ト」コカラ 「ドッ」サリ オイワイ 「モ」
「ー」テ ヤ「ナ」ー。
「アンナ オ」ソ「マツナ コ」トデ 「エ」ライテ「ー」ネーニ 「ソ」ンナ ユーテ モラウヨ「ー」ナ 「モ」ント 「チガウ」カッタノニ 「マ」ー「マ」ー 「フタ」リデ ナカ「ヨ」ー ヤッテ「ン」デ コッチ「モ」 「キーガ ラ」クニ ナリマシテ ナ「ー。

いえいえ、来てもらってもねえ。沢山、何、なかってねえ。あんたの所から沢山のお祝いをもらってねえ。あんなお粗末なことで、大変丁寧に、そんな言ってもらうようなものとは違ったのに、まあまあ、二人で仲良くやっているので、こちらが気が楽になりましたねえ。(老男→老女、試演)
〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈やや改まり〉

【説明】

(1)は、非常に親しい者同士の会話である。老女のケには、親しみの気持ちが込められている。ケの代わりにここで、カを用いるとすれば、一転、ぞんざいな響きとなる。ジェは、泉南方言における断定の助動詞と認定できよう。また、文末詞のオーは泉南独特の響きを持つが、ヤ行系の「ヨ」「ヨー」と関連があろうか。オーの使用は古老男性に多い。

(2)の場合は、ごく親しい者同士の場合とは異なり、やや改まったのやりとりである。お祝いのことばは結婚式の折、既に述べているので、ここで

は結婚式に招かれたお礼を言うだけのことが多いということである。新婦のことや二人の仲のことなどを聞くのもやや気がひけるというものであろうか。嫁をもらった父親は、これを押し置けるの応答である。

Ⅶ. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人のところへ新郎新婦（あるいは両親）がお礼に行った時どのようなあいさつをしますか。

○ 「コノ「タビワ エ「ライ ホンマ「ニ「 オ「セ「ワニ ナリマ「シテ オカゲサンデ 「フタ「リモ ナカ「ヨ「ー ヤッテマス「ンヤ。「 エ「ライ 「ホンマニ アリガト「ー ゴザイマシタ。「フタ「リワ モー シンコン「リョ「コーニ 「イテ「 モー 「ナカヨ「ー カエツキマ「シタンヤ。「ワシ「ラモ カタノ ニ「ヤ「 オリ「テ。「ホンマニ ア「ンタノ オカゲデ 「コンナン「 ナッタ「ンヨツテニ 「ホントニ アリガト「 「ゴザイマシタ。

「コレ コンナ「 オソ「マツナ モ「ンヤスケ「ド。

この度は、大変ほんとお世話になりました、おかげさんで二人も仲良くやっていますよ。大変、本当に有難うございました。二人は、もう新婚旅行に行って、もう、仲良く帰ってきましたよ。私らも肩の荷が降りて、本当にあなたのおかげで、こんなになったのだから、本当にありがとうございました。（お礼の品物を差し出して）これ、こんなお粗末なものですけど。（新郎の父親〔老男〕→仲人〔老男〕、試演）〈上待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈かしこまり〉

2. 仲人はそれに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○ イ「ヤ「イヤ ゴ「テ「ーネーニ。「ソ「ンナニ「マデ シテ モラ「イデモ。モー 「ワシヤ チョット ナニ「モ モー アノー 「コレ「テ ユー コ「トモ 「ヤ「クニ タツテナイノ「ニ フ「タ「リヤー モー 「トント「ンビョ「ーシデ ヤナ「ー 「ハナ「シャー ススンデ イテ 「ワシニ レー ユーテ モ「ータラ 「ハズカシ オマス「 ワンデ 「フタ「リワ 「ゲ「ンキデ ヤッテマス 「カ。

いやいや、ご丁寧に。そんなにまでしてもらわなくても。もう、私は、ちょっと、何にもこれということも役に立ってないのに、二人はもう、とんとん拍子でねえ、話が進んで行って、私に礼を言ってもらったら恥ずかしいですよ。それで、二人は元気でやっていますか。（仲人〔老男〕→父親〔老男〕、試演）〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈かしこまり〉（仲人のあいさつに応じて、再び新郎の父親、それに対する仲人の対話を

以下に掲げる)

○ エー オカゲサン「デ。「フタリワ モー ナカ「ヨー 「ヤッ
テインデ ナー 「ホンマニ モー ヨロコンデ「マス「ンヤ。「ア
ンタノ オカゲデ ナー。

ええ、おかげさんで。二人は、もう、仲良くやっているんでねえ、本当
にもう喜んでるのですよ。あなたのおかげでねえ。(父親[老男]→仲人
[老男]、試演)〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈盛〉〈親しみ〉

○ 「フタリヤー ナカ「ヨー 「クラシチャーテ クレタラ モ
ー 「ワシ「モ 「アンシンヤス「ヨ。「ドーシテ「ン カイナート
オモテ「タノニ ソラー モー ホンデ「モ マー 「トーカ「 タッ
テ「ヤ 「ナー 「ソレデ「 ナカヨー シテル ヨ ヤッ「タラ
「ダイジョブヤ「ロ カ「イ。

二人が仲良く暮らしてくれれば、もう私も安心ですよ。どうしてい
るんだろうとと思っていたのに、そりゃもう、それでもまあ、十日経ってだ
ねえ、それで仲良くしているのだったら、大丈夫だろうかねえ。

(仲人[老男]→父親[老男]、試演)〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉
〈盛〉〈親しみ〉

【説明】

本来、結婚式後の仲人へのお礼のあいさつは、新郎新婦が出向いて述べる
のが普通であろうが、ここでは新郎の父親がお礼に行くという場面設定
である。新郎の父→仲人→新郎の父→仲人という順に続くが、前半は礼の
やりとりで、互いにややあらたまつてのあいさつだが、後半部分は、即座
に普段の親しい関係にたち戻つてのやりとりとなっている。

Ⅳ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親にどのようなあいさつをします
か。

○ 「ホ「ナ 「アシタ サトガ「エリデ 「カヒラヒテ モライマス。

では、明日、里帰りで帰してもらいます。(老女→老女、試演)〈中待
遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈稀〉〈やや改まり〉

2. 両親はそれに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○ 「コレ「 モッテ ナー 「ホ「ナ 「ナ 「アヒ「タ 「カエリ
エー。

これ持ってね、じゃあ、明日、帰りなさいね。(老女→老女、試演)〈
中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈稀〉〈やや改まり〉

【説明】

結婚式が済んで三日後（式当日から数えて）に里に帰るといふ〔「ミッカガ」エリ（三日帰り）〕という習慣があった。教示者によると、

○ 「サトガ」エリヤー ココ「ラ」ー 「ミッカガ」エリト コー ア
ッタ「サ」カイ 「ナ。「ミッカガ」エリッテ 「ナ ク「ル」マニ ノ
ッテ 「ナ モー 「ヨメサンニ キ」タラ 「ハジメワ」 マー シ
「ロ」ムク 「キテー 「ホイテ マ」ー アノー シ「マ」ダニ 「ユ
ーケ」ロ 「ミッカガ」エリニ 「マルアゲニ ユ」ーテ ク「ル」マニ
ノッテ 「ホテ ミヤゲ」 モッ「テ サトガ」エリニ 「カイラヒ
テ モライマス」ッテ 「イヌ」ンヤシ 「ナ」ー。「ワ」カイ ヨメサ
ンラー 「ソナ コ」ト 「シェ」ーヘン モー。

里帰りは、この辺りでは、三日帰りと、こうあったからね。三日帰りというのはね、車（人力車）に乗ってね、もう、嫁さんに來たら、はじめはまあ、白無垢を着て、そしてまあ、あのう、島田に結うけど、三日帰りには、丸鬘に結って車（人力車）に乗って、そして土産を持って、里帰りに帰らしてもらいますって、行くんだよ。若い嫁さんたちは、そんな事しない、もう。（老女→筆者）

式後、新婚旅行に行くケースが多くなって、「三日帰り」をしなくなったという。

○ ムカ「シャ」ー ヒ」タケド イマ 「シェ」ーヘン ワ 「ホンナ
コ」ト。「リョ」コーニ イカ」シ。「ミッカガ」エリ スル 「カワリ
ニ。

昔はしたけど、今、しないよ、そんなこと。旅行に行くよ。三日帰りを
する代わりに。（老女→筆者）

また、慣習的な「三日帰り」ではない、はじめての里帰りということにな
ると、なかなか新婦の方から切り出すのは難しいものである。

○ ヤッ「バ」リ 「オヤノ」 ホー」カラ 「ユー」チャラ」ナ 「イキマ
ヘン」 ワナ」ー。

やっぱり親の方から言っやらないといけませんわね。（老男→筆者）

以下に、その場合の試演をみることにする。

○ オマ「エ」モ イッペンヤ ナ」ー オ「ト」ーサンヤ オ「カ」ーサ
ンノ 「カオ ミタ」インヤロサ」カイ 「カイッ チョ」イデ。

お前も一度ねえ、お父さんやお母さんの顔をみたいだろうから帰ってお
いで。（老男→老女、試演）〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈多〉〈く

つろぎ)

- 「ココ」ノ 「ヨメニ」 ナッテ 「キチャ」ーンデ ベツニ 「イニ
ト」ー アリマセンケド。

ここの嫁になって来ているので、別に帰りたいありませんけど。(老女
→老男、試演)〈中待遇〉〈新〉〈全年層〉〈多〉〈ややかしこまり〉

- 「マ」ー 「ソ」ー ユワ」ント 「インデ コ」イ ヨ。

まあ、そう言わずに行ってくださいよ。(老男→老女、試演)〈中待遇〉〈
古〉〈中年層以上〉〈多〉〈くつろぎ〉

- マー ソラ オ「ト」ーサン 「ソ」ンナン ユーテ クレ」ンヤッタラ
「カ」イラヒテ モライマス。

まあ、そら、お父さん。そんなに言ってくれるのだったら、帰らせても
らいます。(老女→老男、試演)〈中待遇〉〈古〉〈中年層以上〉〈多〉
〈ややかしこまり〉

(大阪市立西第二商業高等学校)